

「令和2年度 学校に関するアンケート」結果と分析

1. 実施について

- (1) 実施時期 令和2年12月15日～12月25日
- (2) 実施方法 アンケート調査（保護者14項目、教員23項目、行政11項目）
- ①一斉メール配信システム「eメッセージ」によるアンケート配信・自動集計
 - ②事前にアンケートを取り、必要な方は紙媒体（プリント）で配付・回収
- ※一昨年度までは保護者25項目、教職員50項目であったが、メール配信システム活用にあたって、項目の精選等を行った（教育庁からの留意点に沿って）。令和2年度は、昨年度と同方法で実施。
- (3) 回答項目 「Aよくあてはまる Bあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない Eわからない」の5項目
- (4) 回収率 保護者 77%（-4ポイント）
内訳： 小86%、中89%、高62%
教職員 99%（+4ポイント）
内訳： 小98%、中100%、高100%、行政100%
- (5) 分析方法 回答中ABを肯定的な意見、CDを否定的な意見として分析した。

2. 概要

保護者対象のアンケートでは、今年度も14項目で実施した。各項目に関しては昨年度と同様の内容で行った。回収率については昨年度の81%に比べると4ポイント減少した。回答結果については、肯定的意見が90%以上の項目が7項目あった（昨年度より4項目増）。全項目の約6割（9項目）に昨年度から5%以上の増が見られ、そのうち、大きく変化の見られた項目（+10ポイント以上）が5項目あった。

教員対象のアンケートでは、昨年度同様合計23項目となっている。回収率は、全体としては99%と昨年より4ポイント増加している。回答結果については、大きく変化の見られた項目（+10ポイント以上）が5項目あった。なお、「行政対象」のアンケートは、昨年度から「教職員対象」を「教員」と「行政」に分けた11項目で実施し、教職員全体として合算している（これまで行政の回答の多くは「E:わからない」を占めており、「行政対象」の11項目を作成。項目の内容は「教員対象」同じ）。項目『食に関する指導の全体指導計画』に基づき、給食時間や各教科等の授業において食に関する指導を行っている。』は昨年度より設けている（質問番号 教員：14 行政：11）。

3. 結果と分析

☆以下の文書中「○%」については、注釈がなければ各項目の肯定的意見の割合（回答A%+B%）となります。また「±□ポイント」は、昨年度と比較した数字になります（例：昨年度80%→今年度83%の場合、+3ポイント）。

（1）学校に対する意識に関するもの

保護者は「1：子どもは、学校に行くことを楽しみにしている」「3：教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」の項目で、それぞれ、84%（+3ポイント）、92%（+10ポイント）と、昨年度と比べると増加している。微増ではあるものの、児童生徒や保護者の願いに応えられるよう取り組んできた部分が、一定評価していただけたと考える。さらに邁進していきたい。

（2）学習指導・教育活動に関するもの

保護者対象のアンケート項目「4：子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている（感じている）」は、79%と+13ポイントとなった。ただし、同項目で「わからない」と回答している保護者が13%（昨年度より-8%）おられることから、分かる・楽しい授業になるよう授業力や専門性の向上を引き続き図るとともに、お子様の授業の様子を知っていただき、学校と家庭と共有できる取り組みがさらに必要であると考えられる。

教職員の「10：教員間で授業見学をし、授業方法等について検討する機会がある。」に関しては、50%（+10ポイント）であり、増加はしているものの、結果としては十分とは言えない。なお、アンケートは12月に実施しているが、全校での取り組みである「公開授業週間」が毎年1月に行われる。また、別の時期には、地域への公開授業・校内研究授業の実施や、学部での研究授業も実施している。しかしながら教職員の実感としては、未だ半数程度と低い様子である。「授業方法等について検討する」機会として、経験年数の少ない教職員の授業力や専門性向上にも大きく関わってくるところであるため、今後も引き続き授業見学・授業方法等の検討の機会の有り方について検討していく。

（3）生徒指導に関するもの

「2：学校の児童生徒指導の方針に共感できる」について、保護者からは92%（+6ポイント）と一定の評価をいただいている。また、「3：教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」「教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」という項目では、92%（+10ポイント）、92%（+17ポイント）となっている。一昨年度の事案後の取り組みを一定評価していただけた結果だと考えられるが、研修等を通して更なる障がい理解と、障がいを理解した上での教職員の実践・言動の見直しを徹底していき、継続できるように努めていく。

（4）進路指導に関するもの

保護者対象の項目「9：学校は子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応

じて適切な指導や助言を行っている」では、全体で76%と昨年度より+6ポイントとなっている。内訳を見ると、小学部 67% (+6ポイント)、中学部 76% (+3ポイント)、高等部 88% (+9ポイント)と学部が上げれば肯定的意見が増加しており、これは、進路・職業などを直接経験することが要因と考えられる。下学部においても、知ることができるといふ機会の設定が必要と考えられる。合わせて、引き続き各学部で発達段階に応じた進路指導、説明・共通理解をはかっていきたい。

(5) いじめに関するもの

保護者対象「10:学校は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、教職員対象「7:いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」に関する項目は、保護者の結果は肯定的意見が61% (+8ポイント)。否定的意見は少数であったが、「分からない」の回答が36% (-4ポイント)であり、その他の項目と比べると、「分からない」が突出して多くなっている。

昨年度の結果であるが、昨年度「わからない」が40%であったため、追加のアンケートを実施している。内訳としては、①「学校でいじめがあるかわからない」が約44%、②「いじめが起こった時に、真剣に対応してくれるかわからない」が約26%、③「どのような方法で対応してくれるかわからない」が約28%、④「今のところ、いじめを感じないのでわからない」が約52%、「その他」が約10%となっている。追加アンケートの選択回答・その他の自由記述からは、いじめがあるかわからない・いじめを感じないという意見が多かったが、確認ができない」という思いを持たれていることもうかがえた。

また、教職員の結果は、肯定的意見が70% (+16ポイント)、否定的意見が11% (-14ポイント)、分からないが20% (-1ポイント)である。現時点ではいじめについては確認ができていないが、今後も早期発見・早期対応に努めるとともに、保護者・教職員へは、「防止に関する取り組みや対応方法(「学校いじめ防止基本方針」)について、さらに周知を図っていく。

(6) 道徳教育・人権教育に関するもの

保護者は「7:学校は、子どもの発達段階や実態に応じて、生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」で肯定的意見が88% (+10ポイント)、教職員は「9:すべての教育活動において、人権尊重の姿勢に基づいた支援・指導がおこなわれている」で肯定的意見が81% (+14ポイント)となっている。児童生徒への道徳教育・人権教育はもちろん、教職員が早急にそれぞれの支援・指導を見直し、取り組んできたことが一定評価されたと考える。全教職員で、お互いに指摘し合える同僚性を意識していくよう取り組んでいるが、教職員の「6:教職員はカウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている」では、今年度83% (2年間で+10ポイント)となっている。

(7) 情報提供に関するもの

「5:学校は、教育情報について、提供の努力をしている」は、90% (+11ポイント) ※

集計結果は割合を四捨五入しているため、実際は89.5～89.9%の間)、「13：学校は、ホームページや緊急連絡システムを通して、情報をわかりやすく発信している」では、94%と高評価を得ている(教職員も95%)。昨年度より新しいメール配信システムを利用し、PTA連絡網に替わる緊急連絡体制・ホームページとの連携等を整えることができている。教育情報については、より良い情報発信をさらに心がけていく。

しかしながら、メールでPDFファイル配信など即時に大きな情報量を配信できる一方、プリントでの配付を求める意見もいただいている。必要な情報の速やかなお伝えとともに、プリント等での丁寧なお知らせができるように検討していく。

(8) 学校教育への保護者の参画に関するもの

「11：この学校の授業参観や学校行事等に参加したことがある」は、95%(+6ポイント)と増加、「12：学校では、PTA活動が活発に行われている」は、昨年度と比べると若干減少したが、83%(-4%)を得ている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事・PTA活動等に関しては例年と違う形での実施となっているため、参画の中身については本アンケートからは十分に把握することはできない。また、「6：運動会、学習発表会、学習展示会や校外学習、宿泊学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫されている」では、92%(+2ポイント)と高い評価をいただいているが、「4：子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている(感じている)」の項目では「わからない」が13%あり、授業参観等が十分に実施できなかった影響もうかがえる。次年度の授業参観や各行事については、本アンケート以外のアンケートを踏まえながら、内容等について保護者の意見も交えつつ工夫していきたい。

(9) 児童生徒理解に関するもの

保護者は(「教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」「運動会、学習発表会、学習展示会や校外学習、宿泊学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫されている」で、昨年度に引き続き、肯定的意見が80%以上となっている。今後も、児童生徒一人ひとりの理解に努め、必要とされる学習内容(・方法や支援を(「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の活用と併せて、保護者や関連機関と連携し、共有していきたい。

(10) 教育環境に関するもの

「14：学校給食の食材や献立・給食だより・給食のブログは、配慮・工夫されている」の項目では、92%(+1ポイント)と高評価である。教職員の「15：この学校では、児童生徒の教育環境が整備され、施設・設備の拡充が見通しをもって計画されている」では、41%(+6ポイント)であり依然低い。児童生徒増に対しては、教室確保のため、毎年教室調整が必要なことや、施設・設備の老朽化等も考えられる。特別教室のエアコン設置については、要望して一部改善されてきたが、引き続き使用頻度の高い未設置の特別教室へのエアコン設置や、ホームルーム教室のエアコンに関しても老朽化が進んでいるため対応も必要となってきている。また、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として予算が付いたが、感染防止のための、空調等を含め

た環境整備・消毒清掃などの安全安心のための対応・今年度大きな必要性に迫られたICTの拡充などに関しては、まだ十分とは言えない部分がある。現在ある施設設備を工夫して最大限活用しながら、見直しを持って計画・適切に予算配置を進めていく。

(11) 学校組織に関するもの

教職員の「18：教育活動に必要な情報について、保護者や地域への周知に努めている」については、74%（+1ポイント）であった。一方で、教職員の「19：情報提供の手段として、学校ホームページや緊急連絡システム（メール配信システム）が活用されている」では、95%（+4ポイント）と高い。ホームページやメールシステムの活用の他、各種たよりで情報提供を行っている。また、個別の指導計画・支援計画に関して、「21：作成」や「22：開示し、説明」というそれぞれの項目では、教職員の肯定的意見が93%（+1ポイント）、95%（-1ポイント）と高い。教育活動に必要な情報を十分に発信しているということ、教職員も認識してもよいのではと考えられる。また、教職員の「2：教育課程の編成にあたって、学習指導要領の趣旨が生かされている」が76（+9ポイント）、「3：教育活動にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」では、78%（+10ポイント）と増加している。現在、新しい学習指導要領に沿って教育課程の改訂や自立活動の指導について見直しを進めているためと推察される。各部順次新しい学習指導要領に沿った指導が行われていくため、より変化が期待される部分である。

「コンピューター等のICT機器が各教科の授業などで活用されている」が85%（+9ポイント）、「16：経験の少ない教職員が成長していけるよう校内研修等、工夫がされている」が62%（+9ポイント）となっている。今年度は特にICT機器を活用する機会が増えている。一方で、全教職員が教育実践に生かせる研修等の工夫は、さらに引き続き必要である。また、学校全体として教職経験の少ない教員をバックアップしていく体制の確立も同様である。「10：教職員間で授業見学をし、授業方法等について検討する機会がある」についても、肯定的意見が50%と低い。各部で初任者以外の研究授業を持ち、また独自に研究授業を行っている部もある。しかし、その部分の反映が見られないため、設定された研究授業だけでなく、日常的に授業見学・検討する機会や、より深く授業を研究討議することを求めていると考えられる。

「17：研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」は、57%（+ポイント）となった。今年度は外部での研修が中止やリモートとなることが多く、例年実施している地域・校内支援部による管外出張の伝達講習会が実施できないことも原因と考えられる。校内での研修・研究も例年通りには実施できていないことも、「伝達する機会」としては少ないとも捉えることができる。

ただし、今年度全体的に肯定的意見が増加しており、コロナ禍ではあるものの、その中でできることを進めることができたのではと、一定評価したい。